

平成27年9月29日

消防局総務課
電話：0742-35-1199

第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会における活動事例発表について

奈良市消防団では、昨年度、全国で初となる消防団としてのPFA（心理的応急処置）の習得と、消防団を中核とした医療支援機関との合同訓練を実施しましたが、この取組について、第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会に於いて、女性消防団員が発表します。

1 大会の名称

第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会

2 目的

全国の女性消防団員が一堂に集い、日ごろの消防団活動や先進的取り組みについて情報交換し、交流することにより、幅広い視野と知識を習得し、その活動をさらに活性化させて、地域住民の安全で安心な暮らしの永続的な担い手として男性団員と共に地域消防力の向上に女性団員としての視点を最大限に活用して貢献することを目的に開催されます。

3 日時

平成27年10月29日（木）～30日（金）

4 場所

佐賀市文化会館

5 主催

総務省消防庁
公益財団法人日本消防協会
第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会実行委員会

6 参加人員

消防団員・消防職員・消防関係者 約2,500名
（奈良市からは 川寄政信 団長以下7名が参加予定）

7 発表者

奈良市消防団広報指導分団 班長 石田裕子
平成21年4月1日 広報指導分団設立と同時に入団
平成27年4月1日 班長
現在に至る

8 発表内容

「心理的応急処置（PFA）の取得と消防団を中核とした合同訓練について」

平成26年7月、奈良市消防団員を対象にWHO版の心理的応急処置「サイコロジカルファーストエイド（PFA）」の研修を受講し、専門家以外でもできる心理的応急処置を習得しました。

そして、奈良市消防団がPFAを活用し、地元自治会、女性防災クラブ、医療関係者、行政等の関係機関の参加を得て、奈良市における局所災害（大地震）を想定し、平成27年2月9日、消防団による被災者の避難誘導、避難所での傷病者や精神科医療を必要とする被災者への初動対応処置訓練を実施しました。

これまで、他の自治体でも同一の総合防災訓練等に消防団、DMAT及びDPATが参加し、それぞれ個別に訓練活動する例はありましたが、実施した訓練は、実際の災害時に地域の防災・減災の中核を担う消防団が、医療専門チームであるDMAT、DPATとの連携訓練を実施することにより、地域防災力の強化、災害時における、よりスムーズな救援・救護体制の構築を図る全国初となる訓練の先進的活動事例の発表です。

9 予算

旅費 194,880 円

10 その他の発表団体・内容

茨城県土浦市消防団「小中学校における救急講習会」
佐賀県多久市消防団「女性消防団！～火災現場から見えてきたもの～」

【備考】

(1) DMAT・DPATについて

・DMAT（災害派遣医療チーム）

「避けられた災害死があった」との教訓から、阪神大震災後にできました。大震災・列車事故等の災害時に被災者の生命を守るため、被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うための専門的な医療チームです。

奈良市内には県総合医療センターと市立奈良病院にそれぞれ2チームがあります。

・DPAT（災害派遣精神医療チーム）

被災者の精神的なケアにあたる精神科医、看護師、精神保健福祉士など数人のチームです。

本年の6月16日決定の国土強靱化アクションプラン2015に盛り込まれました。自然災害、列車事故、犯罪事件などの大規模災害等の後に被災者及び支援者に対して、精神科医療及び精神保健活動の支援を行うための専門的な医療チームです。

県内では、災害に応じて県立医大病院や県精神保健福祉センターを中心に組織します。

(2) P F Aについて

サイコロジカル・ファーストエイド (PFA)

苦しんでいる人、助けが必要かもしれない人に、同じ人間として行う、人道的、支持的な対応のことです。

- ⇒ 実際に役立つケアや支援を提供する、ただし押し付けない
- ⇒ ニーズや心配事を確認する
- ⇒ 生きていく上での基本的ニーズ（食料、水、情報など）を満たす手助けをする
- ⇒ 話を聞く、ただし話すことを無理強いしない（添付資料：よい言葉がけ）